

事業所名

児童発達支援事業所 にじのいえ

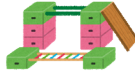
支援プログラム

作成日

令和7 年

3 月

1 日

法人理念		こども一人ひとりが、生まれもった能力を花開かせ、真の意味で成長・発達することができる教育、療育の実践		
支援方針		モンテッソーリ教育を柱に環境を整え、全てのこどもが持っている「ひとりでやってみたい」「できるようになりたい」という願いを出発点に療育を行います。こども達ひとり一人が、楽しみながら、じっくりと心と体を働かせ様々なことに取り組み、「できた！」を繰り返せるようにサポートしていきます。「できた！」を繰り返すことで、生きる源＝自己肯定感を育んでいきます。		
営業時間		9時00分～17時00分（12時45分～13時45分を除く）	送迎実施の有無	なし
		支 援 内 容		
本人支援	健康・生活	着替え、排泄など、生活に必要な動作や手順を整理し、その子にあった手立てを考え、こどもが一人で「できる」用具、道具の工夫、やり方を提案します。 例：こどもの力で扱いやすい素材で作られたコップ袋など。 		
	運動・感覚	こどもたちの「やってみたい」という気持ちを引き出す育ちに合った豊富な教具、教材を取り揃えた環境を用意し、自然に指先を使う経験を提供します。また、巧技台や揺れ遊具で様々な姿勢での運動体験や感覚を使う遊びも取り入れます。日常生活の中にも、立ちしゃがみや物を運ぶ機会を設けます。 例：つまむ、貼る、ちぎる活動、はさみ切り、のり貼りなどの製作活動、巧技台でのサーキット活動、揺れ遊具での体幹の保持、トレーで運ぶなどの日常的な活動など 		
	認知・行動	モンテッソーリ教具を中心に「集める」「分ける」「合わせる」など「理解する」力、「整理する」力を育んでいきます。また、教具を扱う感覚体験を通して、実体験を伴った概念形成の基礎作り、獲得を支援します。 例) ピンクタワー、茶色の階段、赤い棒、色板、出し入れ教材など 		
	言語コミュニケーション	サインや写真・絵カードなどの視覚的ツールを併用し、こどもの「わかる」を助けるとともに、こども一人ひとりに合わせたコミュニケーション手段を使って、「伝えたい」ことや「伝わった嬉しさ」を支えていきます。 例) 写真カード、絵カード、マカトンサイン、こども手話、コミュニケーションブックなど 		
	人間関係社会性	朝のあいさつ、帰りのあいさつなど、こどもが「自分からしたい」と思う関係性を築き、自然に身につけていくことを目指します。また、小さな集団の中で友だちと生活や活動を共にすることの心地よさ、楽しさを感じられるような場を設けていきます。一緒に遊んで「楽しい」経験、友達とやり取りする機会をベースに、大きな集団にも参加できる力を育みます。 		
家族支援		活動のフィードバック、面談、見学の機会を通して、ご家族の皆様に寄り添い、ご家族のこと、お子さまのことについて共に考えていきます。	移行支援	保育所との交流や地域イベントへの参加、公園への散歩や商店街への買い物、公共交通機関を使つての遠足などを通して、「地域で暮らす」体験をサポートします。
地域支援・地域連携		医療機関、障害児通所支援、幼稚園、保育所、小学校などと連携し、情報交換を行い、多角的な視点からサポートします。	職員の質の向上	モンテッソーリ教育や各種療育に関する研修、救命救急講習の受講、虐待防止・権利擁護研修、身体拘束適正化に関する研修、感染症対策研修を定期的に実施することを通じて、研鑽に励みます。
主な行事など		植物の植え付け、めだかのお世話、夏の水遊び、誕生会、季節の製作、日々の日付の確認など、季節や自然、時の流れを感じられるプログラムを提供します。 例：トマトやきゅうりの収穫・食する経験、一年の流れが見てわかる「時のカード」の掲示		